

TEGOネットだより浜田

「てご」とは、方言で「手伝う（支援する）」という意味です。

平成25年8月9日 第75号
浜田市農林業支援センター

はじめに

7月末から不安定な気象状況からゲリラ的集中豪雨により全国各所において多くの被害が発生しました。管内においては大きな被害は見受けられませんでした。被害を受けられた方々に対しお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復興・復旧をご祈念申し上げます。

さて、平成25年度経営所得安定対策の取組によります現地確認を、今月下旬から計画しています。事前にお配りしています確認標を、該当ほ場に立てていただきますようご協力をお願いします。
(浜田市農林業支援センター長 大谷 十三一)

1. 各支援チームからの話題

★ 新規就農者支援チーム (担当：稲田・中田)

いなだ なかた

研修希望者、浜田に集う！

8月3～4日、浜田市ふるさと農業研修生を希望する方を対象とした「現地視察会」を開催しました。当日は関東や関西方面から3名が参加されました。この視察会は、市内認定農業者で研修受入可能な経営体を訪問し、実際の現場を見て生産者とお会いすることで、より自分の理想とする農業スタイルに近づけることができる研修先を選択してもらうものです。

今回は19の経営体を訪問しました。参加者は熱心に話を聞き、研修内容等について質問されていました。今後研修の申込を受け付け、短期研修後に審査会を開催し、10月からの研修開始となります。

当日はお忙しい中、ご対応いただきました経営体の皆様、誠にありがとうございました。当支援センターでは引き続き、農業の担い手確保に努めてまいります。



● 認定農業者支援チーム (担当：中田・稲田)

なかた いなだ

トロ箱栽培に挑戦！



水稻を中心に経営されている、旭町の認定農業者 岡本隆人さんは、この度、水稻育苗後のハウスを活用したトマトの「トロ箱栽培」に取組まれました。この栽培は、海産物などを入れる安価な発砲スチロール容器を使った「少量土壌培地耕システム」と呼ばれ、移動が可能で低コスト、投入肥料も抑えられることから、水稻育苗後のハウスの活用として、近年、島根県が導入を勧めています。

昨年6月に旭町で設立された、農作業受託会社の(株)サンファームみのりの本栽培への取組みが、岡本さんの始める動機づけとなりました。「順調にいけば、将来的にトマト以外の作物も栽培していきたい」と話す御年76歳の岡本さんの挑戦は、まだまだ続きます。

■ 集落営農組織支援チーム (担当：田原・森脇)

たばら もりわき

集落営農組織連絡協議会 総会・研修会

7月30日、いわみ中央農業協同組合本所のふれあいホールにおいて、集落営農組織連絡協議会の総会が開催されました。

今年度は役員改選の年であり、新会長には江津市の(農)川平みどりの天野明氏が、新副会長には三隅町の周布地営農組合の川本繁美氏が就任されました。

また総会の後には研修会を開催し、邑南町の(農)星ヶ丘から富永英明氏を講師としてお招きして集落営農組織の経営多角化と新規人材確保についての講習が行われました。(農)星ヶ丘では組合員の家族を活動に巻き込むことで集落内で人材を確保しており、さまざまな露地野菜等を作付けすることで経営多角化を図り、専従職員の収入を確保しているとのことでした。

他地域の事例ということで浜田市とは事情の違う点もあったかと思いますが、熱心に質疑応答が行われ、有意義な研修会になりました。今後も協議会の取組みについて、情報を発信していきます。



2. 初夏の味覚！ブルーベリーが食べごろです

(1) 試食販売会が開催されました

7月31日と8月9日、JA きんさい市場黒川店前において、**浜田市のブルーベリー生産者4名による試食販売会**が開催されました。

1回目の販売会ではハイブッシュ系（早生種）が、2回目の販売会ではラビットアイ系（普通種）が出品されましたが、販売されたブルーベリーの種類はさらに細かく分かれており、試食された方々はそれぞれの個性的で瑞々しい味わいに驚きの声をあげておられました。

また、両日ともに浜田女性部の手作りブルーベリーデザートもあわせて販売され、同じく好評を博していました。

(2) 夏休みの思い出に！観光農園もお楽しみください

今年も**弥栄町**と**三隅町**で、ブルーベリー狩りが楽しめる**観光農園**がオープンしました。期間は残りわずかですが、摘みたての完熟ブルーベリーの爽やかな甘みと酸味を、ぜひお楽しみください。

- やさかファーム阿郷の里（弥栄町大坪） 0855-23-5339 8月31日ごろまで開園
○柳青ブルーベリー庭（三隅町室谷） 090-9738-3449 8月20日ごろまで開園



3. 集落ビジョン実践塾に参加しました

7月10日、本紙第73号で紹介させていただきました「**集落ビジョン実践塾**」（出雲市）に参加しました。今回は、集落ビジョンを集落で作成し、実践した集落営農組織2事例が紹介されました。

1つ目は女性が参加できる環境を整えるために、閉校となる学校を活用して加工場を整備した事例であり、集落の既存の人材を活かして経営多角化と地域活性化を図った事例でした。

2つ目は複数集落の集落営農組織・認定農業者が新規就農者の指導・受け入れ体制を整備し、1ターン1名の受け入れに成功した事例でした。

講師の方々には、まずはみんなでビジョン（夢）を語り合い、集落の課題を整理して集落にとって必要な事を考える機会を設けることが必要であることを強調しておられました。

集落ビジョン作成に興味をお持ちの方がおられましたら、当支援センターまでお気軽にご連絡ください。



4. 島根県農業技術センター試験研究情報

島根県農業技術センターから水稻の有機栽培で最大の課題となる除草についての試験研究情報が提供されました。

今回は美郷町の農業者の方が実践されている、安価で軽量の「**竹ボウキ除草**」を紹介します。

これは、竹の枝を長さを揃えて固定して引っ張り、枝に雑草や藻が絡み付いて除草されるというものです。

長所は、①安価（ホームセンターで竹ボウキや固定金具を購入し自作が可能）

②重量が軽く、比較的少ない労力での作業が可能（10aを40～50分程度）

③実施時期は田植前日まで、または田植後2日目以降、田植え後の早い段階から除草（抑草）可能

④機械除草より稲体の傷みが少ない の4点です。

しかし、雑草を抜くための負荷が軽いので1～2回の作業では雑草が取りきれず、4～5回行う必要があり、今後は作業のタイミングや回数などの検討を重ね、小規模ほ場でも利用可能な技術となるよう改良されるそうです。

この技術に興味のある方は、農業技術センター（TEL 0853-22-6698）までお問い合わせください。

また、HPもご参照ください。 <http://www.pref.shimane.lg.jp/nogyogijutsu/tokimeki/406.html>



除草作業の様子



竹ボウキ除草器

- 当情報誌は新規就農者、認定農業者、集落営農組織と関係機関の皆様に配信しています。
○ご意見、掲載要望、または配信停止をご希望される場合は下記までご連絡ください。

■ 発刊元 浜田市農林業支援センター

〒697-0024 島根県浜田市黒川町 3741 (JA いわみ中央本所分館 2 階)

TEL : 0855-22-3500 FAX : 0855-22-3477 E-mail : n-shien@city.hamada.shimane.jp